

# 今夏群馬ニ見タル「パラチフス」一流行ノ病原調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38379">http://hdl.handle.net/2297/38379</a>

十全會雜誌

(第七拾壹號)

原着及實驗

●今夏群馬ニ見タル「バラチフス」

一 流行ノ病原調査

醫學科第四年級 廣 瀨 勇

明治四十四年七八月ニ亘リ群馬縣師範學校ニ發生セル「バラチフス」ハ其病勢一時頗ル猖獗ニシテ僅ニ旬日ヲ出テズシテ全校生徒ノ半數以上ヲ襲フニ至レルハ鈔カラズ地方醫界ノ注目ヲヒケリ、余半學不敏ノ身ヲ以テ縣衛生課長田村氏ノ好意ニ依リ縣細菌室ニ於テ細菌検査ニ從事シ傍ラ學校ニ於ケル臨床的研究ヲ許サレシハ深ク自ラ光榮トスル所、今同所ニ於ケル約二十日間ノ調査ノ一端ヲ報告スルニ當リ謹ンテ全氏ノ好意ヲ謝ス

一、緒 論

之ヲ文獻ニ徵スルニ「バラチフス」ハ其症狀「チフス」ニ比シ輕微ニシテ豫後從テ佳良ナリトス、而モ兩者ノ鑑別ハ偏ニ細菌の検査ヲ待テ始テ決セラ

(原着及實驗)

ルトナス今日ニ於テハ未ダ實際細菌の検査ノ便宜ヲ缺ケル開業醫間ニ在リテハ往々「チフス」或ハ不全「チフス」ナル診斷ノ下ニ本症ノ葬ラル、場合少シトセズ、只一度本病ノ學校軍隊ノ如キ團體生活圈内ニ發生スルヤ其傳染力ハ時ニ逞フシテ戰慄スベキモノアリ今回ノ小流行ノ如キモ七月十三日ヨリ十九日ニ至ル僅々七日ノ間ニ二百五十八名ノ生徒中百四十三名(一日平均二〇、四名)ノ患者ヲ算スルニ至リシハ之ヲ本邦ニ於ケル本病諸流行記錄ニ徵スルモ蓋シ出色ノモノト謂フチ得ベシ

先ツ順序トシテ發生ノ狀態ヲ叙センニ全校ニテハ七月十四日ヨリ第一學期試驗施行ノ豫定ニテ生徒ハ專ラ之レガ準備ニ汲々タリ、時ニ全月十二日全校出身六週間現役兵四十名ハ滿期除隊トシテ一先ツ歸校シタルヲ以テ職員在校生徒一同ハ之ヲ招シテ全日晝刻食堂ニ大茶話會ヲ催フシ大ニ其勞ヲ慰セル後除隊兵ハ直チニ歸郷ノ途ニ就ケリ、超テ十三日心身違和ヲ訴フル熱性患者二名發生セルモ別ニ注目セラレザリキ。然ルニ翌十四日新患七名、全十五日二十九名ヲ出スニ至リ校醫及當局者ノ焦慮一方ナラス一方細菌的検査ノ結果ハ愈々B型「バラチフス」ト決定セラル、アリ事態急ヲ告グルヤ直チニ學期試驗ヲ中止シ全力ヲ舉テ之ガ豫防消毒ニ努メタリト雖如何セン之ガ蔓延ノ勢力ハ頗ル逞クシテ終ニ大多數ノ患者ヲ見ルニ至レリ今患者發生表ヲ學年別ニ示セバ次ノ如シ

患者發生表

(原着及實驗)

年月	年級	一年(平均年齡七〇・四)	二年(八〇・九)	三年(九〇・四)	四年(三〇・〇)	計
十三日	0	1	0	1	1	2
十四日	2	0	1	4	4	7
十五日	8	7	4	10	10	29
十六日	8	10	5	8	31	31
十七日	15	10	4	4	33	33
十八日	5	12	3	3	23	23
十九日	9	5	1	3	18	18
計	47	45	18	33	143	143
全級ニ對スル割合	56%	59%	45%	53%		

形勢既ニ斯ノ如シ、之ガ病源ヲ究ムルハ頗ル重大ナル問題ニ屬ス。本病々源ノ由來ニ就テハ甲者ハ軍隊ヨリ輸入セルモノナリトシ乙者ハ之ヲ否定シテ動物カズ、蓋シ全校六週間現役兵ノ入隊セル高崎歩兵聯隊ニ於テハ昨年夏季本病ノ小流行ヲ見タルガ本年モ六七月ニ亘リ本病患者四十六名ノ發生ヲ見ルニ至レリ而シテ當局者ガ豫防消毒上ニ講ジタル策ハ勿論違算ナカルベキモ不幸ニシテ時恰モ本件ニ際會セルヲ以テ病源搬入ノ途ヲ直ニ軍隊ニ目サレシハ又止ムヲ得ザルナリ。仍テ余ハ病源輸入ノ真相ヲ明ニセントシ細菌的檢査ヲ行ヘル結果次ノ如シ

二

凡ソ一傳染病ノ病源ヲ考フルニ當リ該病源菌ガ有スル發育要約ガ之ニ關係尠カラザルハ云フヲ俟タザルナリ「チフス」菌ハ外界ニ擴汎シ生活ヲ營ム能ハザルニ反シ「バラチフス」菌ハ善ク外界ニ散布セラレ加之健康諸動物体内

殊ニ豚ノ腸管中ニ証明セラル、事アリト稱ス、從テ傳染ノ機轉ニ至リテモ「チフス」ニ比較シテ多様ナルベキハ疑ヲ容レザルナリ嘗テロツリー氏ハ本病ノ傳染經路ヲ調査シ次ノ如ク報告セリ

- 一、「バラチフス」ニ罹レル動物ノ肉ニヨルモノ
- 二、接觸ニヨリ直接ニ患者ヨリスルモノ
- 三、菌携帶者ニヨリスルモノ

其他内外ノ諸報告ヲ見ルニ一牧師ハ愛飼セル鸚鵡ニ接吻セルガ爲ニ本病ニ罹リタル例アリ、先年大阪深草聯隊ニ於ケル大流行ハ營内ヲ貫流スル疎水ノ使用ニ起因セリト稱ス而シテ食物ニ混ジ傳染セル前例ハ之レナキニ非ザルモ學者ノ說ニ依レバ頗ル稀ナリト云フ

余ハ第一步トシテ軍隊方面ノ調査ヲ遂ゲンテ欲シ便宜ヲ得テ衛戍病院ニ就キ真相ヲ明カニシ且軍隊側ノ主張ヲモ聞クヲ得タリ、高崎聯隊ニ於ケル本年度該患者ノ發生ハ六月十六日ニ初マリ七月廿三日ニ了ル、其當初患者ノ發生ヲ見ルヤ大ニ前年ノ例ニ鑑ミル所アリ兵員全部ノ檢診ヲ行ヒ少シク心身違和發熱ヲ訴フルモノハ舉テ之ヲ病室ニ收容シ糞便、尿、血液ニ就キウヰグダール氏反應ヲ徵スル事二週ニシテ陰性ノモノハ健康者トシテ退院ヲ許可スル方針ヲ取レリ、一方營舎ノ消毒ハ所謂軍隊式ヲ以テ嚴密ニ行ハレ營外トノ交通遮斷セラレ兵ノ日曜外出ハ絶對ニ禁止セラレタリ、而シテ軍隊當局者ハ今回ノ軍隊輸入說ニ對シ斷乎トシテ反對シテ曰ク試ミニ患者發生ノ部隊ヲ左ニ就テ見ヨ

- 第一大隊 自六月二十八日至七月八日 四名
- 第二大隊 自六月十六日至七月二十三日 卅四名

第三大隊 自六月十七日至七月七日

八名

全ク患者發生ヲ見ザルモノハ三、十一、一ノ三ケ中隊ナリ而モ六週間現役兵ハ幸ニシテ上ノ無患者中隊ニ屬セルモノナルガ之ガ除隊ニ際シテモ豫メ今回ノ如キ事ナカランナ期シ其檢診ニ消毒ニ特ニ一層ノ注意ヲ拂ヘルモノナリト稱セリ

醜ツテ思フニ本患者ノ初發ハ歡迎會翌日ニ胚胎シ十五日ニ至リ俄ニ廿九名ノ多數ヲ出セリ、之レ時恰モ學期試驗ニ際セルヲ以テ忠實ナル學生ハ欠席休養ヲ欲セズ忍耐シツ、受験ヲ續行セルモノヲ試驗中止ト共ニ心身偉和ニ堪ヘズシテ初テ診斷ヲ受ケタルニ依ルベク其初發ハ早ク十三日前後ニ在リト見做ス事ヲ得ベシ

由來本病原菌タルヤ近ク一八九六年 Acard 及 Boursaud 二氏ニヨリテ「チフス」菌ト分立サレシモノニシテ之ガ臨床的症狀ノ如キモ學者ニヨリテ一定セズ殊ニ歐羅巴ニ於ケルモノト本邦ニ見ルモノトノ間ニ症狀ノ差異アリトサヘ傳ヘラル從テ潜伏期モ一定セラレザルモノトス今假ニ前説ヲ是認シテ考フルニ今回ニ於ケル本病潜伏期ハ嘗ニ一日ヲ出デザルモノト考ヘザル可ラズ是レ余ノ不敏ヲ以テスルモ餘リニ實際ニ遠キガ如シ

更ニ茲ニ軍隊說ノ根底ヲ危カラシムル事實ヲ有ス、本年軍隊ヲ侵セル本病ノ症候ヲ聞クニ稍定型的トモ稱スベク脾臟腫大、「ロゼオラ」等ハ多數ノ患者ニ就テ著明ニ證明セラレタリト云フ、然ルニ本校患者ノ症候ヲ見ルニ寧ロ之ヲ不全「バラチフス」トモ稱サルベク脾臟腫大、「ロゼオラ」ノ著明ナルモノ皆無ニシテ熱型ノ如キモ頗ル不定ノ經過ヲ取レルモノ多シ是ヲ彼ト比較シ思フニ全ク兩者ノ病原菌ハ別乎ノ系統ニ屬スルモノ、如シ

(原著及實驗)

次ニ除隊兵ト飲食ヲ共ニセル茶話會出席者ヲ見ルニ本科生徒二五八名、職員及卒業生四〇名、除隊兵四〇名、二部生四四名、講話生總代四名、計三八六名ノ如シ而シテ患者ハ校内ニ起臥セル本科生中ニノミ發生セルハ之モ一顧ノ價値ナクンバ非ズ

茲ニ於テ六週間現役兵ノ糞便檢査ハ公衆衛生上ハタマ又病原探査上必要ニ迫ラレ直チニ之ニ着手セリト雖業ヤ頗ル難ニシテ既ニ各自歸郷ノ後ナルヲ以テ先ツ糞便採取器ヲ送達シ之ニ受容シテ還送セシム其間ニハ種々ノ故障ヲ生ジ迅速ニシテ満足ナル成績ヲ希ミ得ズ、八月十日現在ノ調査ニ依ルニ

總數	檢便者	陽性	陰性
四〇	九	三	六

○陽性トハB型「バラチフス」馬免疫血清三〇〇倍ニ凝集反應ヲ起スモノ

豫メ陰性ナルベシト信ジ行ヘル試驗ノ結果ハ頗ル吾人ノ想像ニ反シカク三三%ノ菌保有者ヲ證セルハ一ノ奇現象ト做スベク病原探査ノ趣味一段加ハルヲ覺エタリ

三

本病發生ノ狀ヲ察スルニ其頗ル爆發的ナル点ヨリシテ多數一時ニ病毒ニ感染セルモノト見做スヲ得ベク發病ノ速遲ニ至リテハ之レ各個性ノ「アンチトキシシン」ノ強弱ニ依テ消長スルモノト信ズ、然ラバ眞ノ傳染機轉如何或ハ歸省中ノ生徒ニシテ本事件前ニ當リ歸校セシ者ナキヤナ慮リ之ヲ學校ニダバスニ全クナシト稱ス、余ハ除隊兵糞便檢査ヨリ先シ前橋市内ニ本病

(原著及實驗)

原菌傳播如何ノ檢索ニ着手シ以テ病原調査ニ資ス所アラントセリ蓋シ本病ノ如キハ發見ノ日敢テ淺カラザルニ非ザルモ雜務繁多ナル開業醫間ニハ比較的注意ヲ拂ハレザル傾キナキヤ、爲メニ不問ノ間ニ病毒蔓延セラレ居ラズヤ、

試ミニ茶話會席上ニテ生徒ノ胃中ニ葬レル食物ヲ調べシニ一人ニ就キ赤飯五碗、煮メ一皿、鱈鮓三碗、生菓子七錢分宛ナリト其善食嚙口賞スルニ堪ヘタリト云フベシサレドモ時恰モ運動不足ナル試驗前ニ當リ如上ノ不消化物多量攝取ハ如何ニ平常善食家ノ評ヲ逞フセル青年ト雖延テ胃腸ノ障礙ヲ及サルヲ得ンヤ、モシ假ニ其以前何等カノ方法ニ依ツテ病毒侵入シ居リシトセバ斯ル異常消化ハ正ニ本病勃發ノ一誘因タルハ疑フ可ラズ

其一、河水ノ檢索

本校地域内ヲ貫流スル風呂川ニ就キ先檢索ニ着手ス風呂川ハ利根ノ支流廣瀬川ヨリ分レ市西ヲ沿テ北ヨリ南ヘ流ル、小川ナリ、川水ノ使用ニ關シ見聞スルニ本校ハ傳染病豫防ノ爲メ川水使用ハ絶對ニ禁シ假令洗濯、撒水用トシテモ從來井水ヲ以テ辨シ來タリ只一ノ利用ト見ルベキハ水勢ヲ以テ水車ヲ廻シ其動力ニテ井戸ヨリ汲水シ水管ヲ架シテ洗面洗濯ノ用ニ供ス、之ヲ嘗テ河水ニ依テ大流行ヲ見タル深草聯隊ノ前例ニ徴スルニ同隊ニテハ表面上疎水ノ使用ヲ禁セルモ便宜ノ餘リ陰ニハ洗濯、洗面含嗽ニ使用セラレシガ爲ニシテ事情頗ル本校ト異ナルモノアリ、尙本川上流地域ニツキ傳染病ノ有無ヲ探ルニ發生當時全ク之ヲ見ズ只下流地域ニ位スル紅雲分、宗甫分ノ二字ハ當市「チフス」患者ノ大半ヲ出シ居リシモ則ニ本病發生ノ病原的價值ヲ認メズ仍テ余ハ更ニ川水ノ細菌的檢査ニ着手スルヲ斷念セリ

其二、炊事夫及食品納入者ノ糞便檢査

若シ夫レ本病原ノ食品ニ依テ輸入セラレシモノトセハ其直接媒介者タル炊事夫及食品納入者ノ健康如何ハ重大ナル關係ヲ有スベキヤ言テ俟ザルナリ、サレ共食品納入ノ事タル時ニ應ジ甲商ヨリシ乙店ヨリス從テ物品、品日時日ノ如キモ明瞭ヲ欠クノミナラズ多數中ニハ不明商人ヨリ轉賣セラレタル物品ニヨリ隱微ノ間ニ病毒侵入ノ機會ヲ作りシヤモ計ラズ、斯ノ如キハ既ニ全ク探究ノ範圍ヲ脱シ手ヲ下スニ由ナシ、其結果ヲ見ルニ

被檢者 陽性 陰性

一一 四 八

之ヲ前述除隊兵檢便成績ニ對照スルニ出テ、益々奇ナリ而モ本成績ハ次ニ述ル事實ニ照シ初メテ其價值ヲ生ズルモノト見做シ得ベシ

其三、市内ニ於ケル本病原菌ノ檢索

小子ハ當初ヨリシテ必ズヤ既ニ本病毒ノ市内ニ蔓延シ居ルベキヲ信ゼシモノナリ故ニ病原調査ノ主眼ヲ茲ニ置き、モシ市内ニ病毒ヲ證明セザルニ於テハ更ニ方向ヲ轉シテ軍隊方面ノ調査ニ入ラント企圖セリ、只着手ノ方法タル頗ル難事ニ屬シ何レノ方面ヨリ手ヲ染ムベキヤニ惑ヒシガ結局市避病院ニ収容サレ居レル腸窒扶斯患者ノ糞便中ヨリ分離培養セル菌ニ就キB型「パラチフス」免疫血清(馬)三〇〇倍溶液ヲ以テ Widal's Reaction, ナ試ミタリ

今其成績ヲ述ルニ先チ「チフス」菌ト「パラチフス」菌トノ凝集反應上ノ關係ニ就キ一言ヲ試ミントス、抑々此二菌ノ如キ類似菌ノ間ニハ所謂類簇反應 (Grouped Agglutination) ハ如何ナル程度運行ハル、カ又其反應ハ免疫動

物ニヨリ消長シ兎ハ殆ンド理想的ニシテ馬血清ハ類屬反應最も高シト稱セラル、ニ係ハラズ普通馬血清ヲ用フル所以如何、是レ一ハ供給價格ノ關係ニ依ランモ元來類屬反應ニ見ル凝集價ハ程度頗ル低ク普通百倍以上ノ血清ニハ之ヲ呈スルコトナク從テ顧ミルノ價値ナシト稱ス

次に起ル問題ハ斯ル二類似菌ノ間ニハ類屬反應以上ニ或特殊關係ナキヤ否ヤ、此事項ハコ、ニ「チフス」患者中ヨリ「パラチフス」患者ヲ捜査スルニ於テ大ナル關係ヲ有スルモノナリ、幸ニ Follis, Schimpel 氏等ノ所論ナル實驗上「パラチフス」B型血清ニ依ル凝集反應ハ其度種々ナルモ「パラチフス」A型及「チフス」菌ヲ凝集セシムル事ナシ、之ニ反シ「チフス」血清ニテハ屢々「パラチフス」B菌ヲモ共ニ凝集セシム

ノ一條ハ大ニ吾人ニ曙光ヲ與フルモノナリ即チ之ヲ以テ見レバ本試驗ニ陽性反應ヲ呈スル患者ハ「パラチフス」ニシテ「チフス」ニ非ザルヲ斷定スル事ヲ得ベシ、余ハ多大ノ趣味ヲ以テ上來記セルト全血清ヲ用ヒ「チフス」患者糞便中ノ菌ニ就テ試驗セリ、果セル哉吾人ノ想像ニ違ハズシテ陽性ヲ呈セルモノ尠カラズ、本成績ハ三別サル

甲Bパラ血清反應十      チフス血清反應一  
乙Bパラ血清反應十      チフス血清反應十  
丙Bパラ血清反應一      チフス血清反應十

思フニ甲ハ本病患者ニシテ丙ハ明ニ「チフス」患者ナリ只乙者ニ至テハ余ハ或ハ混合傳染ナラント欲ス蓋シ高崎聯隊内ニテハ「チフス」免疫者ニシテ本病ニ犯サレタル新シキ實驗アリト云フガ如キヨリ推論セバ實際ニ混合傳染ノ機會ハアリ得ト稱シテ可ナルベキカ、就中時チ次第市内上毛孤兒院ニ發

(原著及實驗)

生セル數名ノ熱性患者ハ糞便及發泡液ニ就テ檢査セル結果「パラチフス」ト確定セラル、アリ愈々コ、ニ至リ市内ニ本病毒ノ彌蔓セルヲ立證セラレタリ、殊ニ一奇現象トモ見徹スベキハ赤痢患者野口某女ニ就キ參考ノ爲行ヘル本試驗ハ明ニ陽性ノ反應ヲ示セリ一論者ハ之ニ對シ謂テ曰ク是レ明ニ本病患者ナルガ經過中ニ見ル下痢症狀(時ニ粘汁ヲ交フ)ニ依リ季節柄赤痢ノ診斷チ下サレ隔離セラレタルモノナラント。之ガ贊否ハ暫ク措キ兎ニ角斯ル事項ハ非顯微鏡的診斷ノ餘弊トシテ實際上往々ニシテ遭遇スルコトナルベク吾人初學者ハ一ノ力アル教訓ヲ得タルモノト信ズ

四、結 論

以上ノ結果ニ徴シテ本事件病原搬入ノ經路ヲ考フルニ  
一、軍隊輸入說ハ斷然否定ス可ラズ何トナレバ多數ノ菌攜帶者トノ接觸ハ最モ危險ナル機會ヲ造レリト云フベシ  
二、前橋市内ニハ本件發生前既ニ本病毒ノ蔓延チ有セリ故ニ之ガ物品食品ヲ媒介シ校内ニ侵入シ得ルハ決シテ想起スルニ難カラズ殊ニ此方面ニハ賄及食品納入者ニ有菌者證明ノ事實ヲ有ス  
然ラバ其何レチ可トシ何レチ否トスベキヤ、此問題ニ對シテハ未ダ俄ニ斷チ下シ難ク上來喋々ノ撫辭ヲ省ミ自愧ノ念禁シ能ハザルヲ覺ユ、蓋シ病原調查ノ事業タルハ高遠ナル學識ト機密周到ナル考索ト相俟テ望ミ得ベク淺見非才余ノ如キモノ、之チ企ツル寧ロ事業ノ尊嚴ヲ傷クルナキヤチコレ恐ル、謹ンテ諸賢ノ示教ヲ希フ (完)